

人材育成の現状・課題

- [本県の状況]これまでのSSHの取組の波及により、理系志向は高く、R8普通科3年の40.8%が理系所属
- [現状と課題]①様々な業種でAI人材が求められる中、本県では2040年にAI人材を含む専門職が3.1万人不足
- ②次代を担う理数系人材の育成には、データサイエンスの素養を育む学びが必要
(情報科を拠点とした、DX・AI人材の育成と文理融合の探究プログラムの構築が有効と想定)
- ③高大連携、県内企業との連携により、実社会で応用できる学びの環境整備が必要

主な事業内容

情報をハブとした3年間縦断型・学科横断型カリキュラムの開発

- 3年間縦断の学校設定科目「Nexus」を開設。3学科横断チームで、データに基づいて地域・企業の課題解決策を構想・提案
- AI関連企業との連携により、地域・企業の課題に応じたAIの設計・開発・検証を実践

- 探究活動の拠点として、用途に応じたラボを有するOita Information Science Centerを整備
- 韓国の姉妹校や台湾の高校との「学びの国際遠隔交流」を通じた、グローバルな視野の涵養

地域を支える高度IT人材の育成に向けた「ITリーダー育成コース」の設置

- 「先取り履修」を含む、専門学校と連携した5年一貫IT人材育成ロードマップを構築
- 情報処理推進機構(IPA)と連携し、応用情報技術者等の高度資格取得を念頭に置いたカリキュラムを編成

- 地元IT企業・大学等と連携し、実例を題材とした社会実装型の新たな学校設定科目の開発・実践
- (例) 科目 **サイバーセキュリティ**：認証や暗号化等、情報資産を守るホワイトハッカーに必要な知識・実践力育成
科目 **データマネジメント**：データの収集・整理・保護・分析を業務改善や意思決定に活用する力の育成

数理・データサイエンス・AIに関する素養を有し、大学等で専門性を深める人材育成に向けた「情報サイエンスコース」の設置



- 新たに「数学Ⅲ」「物理」「理数探究基礎」を開講。教科「情報」のデータ分析、プログラミング等と結び付け、データに基づく論理的思考力を育成。情報・理工系学部への進学を後押し
 - 情報と理数の学びを接続させ、データに基づいて仮説検証を行う科目「理数探究基礎」の教材開発・実践
 - 大学等の助言を受け、実社会のデータを多角的に捉える「情報×他教科」の教材開発・授業実践
- (例) **情報×理科**：気温・二酸化炭素濃度データによる気候変動分析
- 県内大学等と連携した、単位の先取り履修の仕組みの構築

事業概念図

3年縦断カリキュラムの編成と「情報×教科横断」授業の実装

正規カリキュラムにおける「情報×数学」「情報×理科」「情報×地歴公民」などの横断型授業の開発・実践



専門学校



大学



企業

ITリーダー育成コース

- 新設科目開発
- ① サイバーセキュリティ・フィンテック・データマネジメント
 - ② 企業と連携したAI開発人材の育成
 - ③ 専門学校と連携した5年一貫のIT人材育成ロードマップの構築

情報サイエンスコース

- ① 情報×理数を接続した教育課程を編成
- ② 情報×他教科の横断授業の開発
- ③ 大学と連携した高大接続プログラムの構築

AI・データサイエンスの学び

他校等への普及・波及

- 校内にデータサイエンスチーム(仮称)を設置。情報科で扱うデータサイエンス、プログラミング、情報システム等の発展的な学習内容を踏まえ、普通科高校での「情報Ⅱ」向けに情報学習パッケージを開発。普通科高校における「情報Ⅱ」の導入・実施を後押し
- Oita Information Science Centerを活用したデータサイエンス実践講座や課題研究成果発表会、教員研修等をSSH校・県教委と協働して企画・実施
- 小中学生及び保護者を対象とした、デジタルものづくり、AI、プログラミングの体験・共同制作講座の企画・実施
- 新学習指導要領改訂を見据え、教育センターと連携し、小中学校教員を対象とした「情報分野」に係る研修の実施